

# 平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録(4 日目)

(平成 28 年 3 月 8 日 午前 9 時 45 分)

●議長 (小林幸雄) おはようございます。ただいまの出席議員は、全員であります。本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配布のとおりであります。

日程第 1 通告による一般質問を行います。質問時間は最大 1 時間をめどに、質問者、答弁者は進行に御協力をお願いいたします。また、答弁者及び質問者の都合により質問の順序を変更することがありますので、あらかじめ御承知願います。なお、質問者と質問者との間に 10 分程度の休憩を取ることにいたします。

通告の 7 吉岡輝明議員。

- 1 政府の施政方針演説にあった「一億総活躍への挑戦」施策について、信濃町町長の見解は
- 2 町民の健康寿命について

議席番号 6 番・吉岡輝明議員。

◆ 6 番 (吉岡輝明) はい。おはようございます。すっかり春の陽気になってしまい、今日などは私、出勤する車で暖房を使わずに来るような状況でございます。今朝の新聞を見ますと、黒姫スキー場の積雪が 50 センチとなっております。このままいくと春休みのスキーのお客様が全部キャンセルになってしまうのではないかとこのふうなおそれもございます。これから一降り、是非降ってもらいたい天気だと思っております。

さて、今回の一般質問は、通告させていただいたとおり、この 1 月 28 日に行われた第 190 回 国会施政方針演説で、政府、安倍首相が述べた中で、一億総活躍への挑戦に係る様々な施策の中で、信濃町に関係するであろうと思われる内容について、お尋ねいたしますので、よろしく願いいたします。

まず、国は、希望出生率 1.8 の実現を目指す、とあります。これについては現況の出生率約 1.4 から 4 ポイントも高い数値であり、マスコミの論調を見聞きすると、とても無理な数値ではないかとの議論もあります。この 1.8 の数字は、日本の人口を 2040 年に 1 億人維持するために必要な数値との見方もあるようでございます。

そこで信濃町のことを見ますと、昨年 10 月に公表された人口ビジョンでは、町は 2040 年に町民 7500 名を目指すために、出生率を 2.21 にまで引き上げると述べておりますが、その出生率 2.21 について、別の角度から調べてみました。

先進諸外国の出生率ベストスリーを調べたところ、2012 年の調査ですが、一番高いのがフランスで 2.0、次いでスウェーデンで 1.92、三番目のアメリカが 1.88 となっております。信濃町もフランス並みに様々な人口増の施策を展開すれば、理論上はできる、理論上は実現できる数値とも思えますが、そこには大きく異なる要因があることが判明しました。その諸外国では、婚外子、いわゆるシングルマザー、日本の場合はシングル

マザーと言いますと離婚された女性が子供を育てて、というふうにとられておりますが、ここではその婚外子でございますね、結婚していない母親からの出生率を言いますが、その婚外子の比率が大変に高くなっており、2008 年の調査ですが、フランスではなんと 55 パーセント。スウェーデンでも 52.6 パーセント、アメリカでは 40.6 パーセントとなっており、日本の婚外子比率わずか 2.1 パーセントとは、とても比べることができない数値となっております。日本と出生率の近いイタリアでも、婚外子比率は 17.7 パーセントであり、先進諸外国の事情と日本の出生率に関する事情は、比べることがとてもできない状況と考えられます。

これらを考えるに今、日本、いや信濃町で出生率を高めるには、何を押しも若い人たちに結婚してもらうことが第一ではないかとの判断が出てまいりました。

そこでまず、町長にお尋ねいたします。町の人口ビジョンにある出生率 2.21 の根拠はどこにあったのか、そしてそれは果たして実現する可能性のある数値なのか、お答えをお願いいたします。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） おはようございます。吉岡議員さんの御質問にお答えをさせていただきたいと思っております。

今、諸外国のことも分析をされ、お話があったわけでございますが、一つは国が今、出生率を 1.8 に高めようと、こういうことでございますが、これは今、国が進めております安倍内閣の下での新 3 本の矢の一つの大きな目標、柱としてあるわけでございます。この関係につきましても、議員御承知のように、希望出生率としては、結婚をして子供を産みたいという人の希望がかなえられた場合の出生率のことでありまして、御案内のように OECD、ヨーロッパを中心にした三十数か国の、この国際機関の半数近くが、その実現水準であるというようなことも含めて、国としてもあらゆる努力をすることによって、実現可能な目標なのだろうというふうに思っております。

さてそこで、町の目標数値 2.21 という数字について、実現可能なのかと、こういうことかというふうに思います。正直なところ大変非常に厳しい数字だというふうに思っております。逆に考えますと、この信濃町を維持していく、そういう高い目標を掲げた時に、何としてもこの目標の実現に向けて努力をしていかなければいけないと、そういう思いで、計画と言いますか、予定と言いますか、実現可能なということを含めて、計画として、させていただいているところでございます。基本的には、これはご存じかと思いますが、当然国だけでできるものではないし、そしてまた、県だけでもできる問題ではない。この信濃町も、いろいろな国の施策、そして県の制度施策、さらには町もそこに合わせて力を合わせて、その目標に向かって努力をしていくと、こういう目標数値でございますので、ご理解を、またお願いしたいと思います。今、御結婚のお話もございました。この辺につきましても、今議会にもお願いしております長野の連携中枢都市圏構想の中でも、その辺についてもお互いに協力しながら取り組んでいこうと、このような事を一つひとつ積み重ねながら、その目標数値に向かって努力をしてまいりたいというふうに思っているところでございます。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6 番（吉岡輝明） はい。それでは今、町長がお答えになった信濃町の出生率 2.21 の数値は、重要業績評価指標である K P I とされるのか、そしてこれについては P D C A を行うのかどうか。そのイエスかノーでお答えください。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。K P I 指標につきましては、直接この合計特殊出生率は示しておりませんが、それぞれの K P I の総合値としまして、これを目標として目指しております。

また、P C D A サイクルにつきましては、昨年度、総合戦略を策定して、人口ビジョンについても策定をしまいたったわけですが、現在の「みらい創生会議」の委員さんの任期につきましては、2 年間ということをお願いをしております、28 年度につきましても、その事業の見直しを含めましてチェックをいただきまして、修正等を加えてまいるといことで、それを繰り返しながら進めていくという考えでおります。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6 番（吉岡輝明） はい、それでは先ほど町長が述べられたように、信濃町の人口 7500 人を維持するためには、この 2.21 が必要だということから、是非この数値目標を目指して邁進されることを願ひまして、話を次に展開いたします。

町では一昨年来、商工会と提携し、婚活プロジェクトを実施していることは了解しており、来年度の予算でも、出逢いの場創生創出支援事業として 20 万円が計上されていることは認めます。若者を結婚させる様々な方策を考える前に、現実に彼らが今抱える様々な問題について考えてみました。国の発表では、生産労働人口の人たちの中で、年収 200 万円未満の非正規雇用者では、既婚率が 20 パーセントにも満たないとのデータがあります。

そこでお尋ねいたします。町内における非正規雇用者は、生産労働人口のどのくらい存在しているか、お答えください。

●議長（小林幸雄） 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長（伊藤 均） 生産労働人口での非正規雇用の割合は、今のところ把握はしていませんが、参考になる数値があります。平成 26 年経済センサスでは、町内の正規雇用者数 2683 人。非正規雇用者数 1046 人。雇用者数に占める非正規雇用の割合は 28.1 パーセントになっております。これは全国平均では 38.8 パーセント、長野県では 38.2 パーセントになっております。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6 番（吉岡輝明） はい。町の生産労働人口の回答が今ございましたけれど、それでは、役場の正職員数は 114 名と記憶しておりますが、町は非正規雇用者、臨時職員に、年間で 1 億 8000 万余の予算、比率にして 3.1 パーセントもの賃金を支払っておりますが、町が雇用する臨時職員の数を、答弁願います。ただし、非正規雇用者、臨時職員の中には、随時採用の職員も多々おるとお思います。ここでは、社会保険に加入している臨時職員数をお答えお願いいたします。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。社会保険加入の臨時職員数につきましては、現在ちょっと手持ちがございませんので、確認の上、回答させていただきたいとお思います。

ただ、町全体の臨時職員数につきましては、210 人でございます。内訳は、役場内が 39 人、教育委員会は 117 人、信越病院が 54 人となっております。このうち月 17 日以上勤務する職員につきましては、社会保険に加入してございます。それでは社会保険加入者につきましては、確認して御回答いたします。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6 番（吉岡輝明） はい。臨時職員の中には、被扶養者に該当するために、年収 103 万の壁を持っている人がいるとお思いますので、その方は除いた数値で回答していただけたとお思います。今、回答になった臨時職員の中で、単身者はどれくらいいるか、分かりますでしょうか。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。内、単身者の方は 2 名でございます。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6 番（吉岡輝明） はい。ということは、信濃町役場職員には、その結婚に該当する非正規雇用者は、あまりいないというふうに理解してよろしいのでしょうか。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。非常勤ということもございまして、それぞれ扶養なり、また、社会保険の壁の 130 万円という中で勤務をされている、そういうことで、それ以外の方につきましては、社会保険の加入をしているということでございます。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6 番（吉岡輝明） はい。今までの話の中で、若い人たちに結婚してもらうには、彼らが結婚できる所得を得られるようにすることが、真っ先であるのではないかと思います。その方策の一つとして、国も現在、多様な働き方改善策として、同一労働・同一賃金の法制化を方針としており、安倍首相も過日の国会予算委員会の答弁で、正規雇用者と非正規雇用者の賃金格差は4割もあることを認めており、早急に是正せねばならぬと述べております。

この同一労働・同一賃金の法制化の施策について、町長のお考えをお願いいたします。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） はい。私は、今国会でも議論をされているというふうに思うのですが、同一労働・同一賃金というのは、至極当然なことだろうというふうに思っています。その中で今、国会で議されているその同一労働・同一賃金という、この中身ですね、中身について、いろいろ御議論があるようでございますので、私どもとしても、そのことを注視してまいりたいというふうに思っております。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6 番（吉岡輝明） 実際問題として、では町は、町内における正規雇用者と非正規雇用者の賃金について、時給換算でどのくらいの格差があるか、把握していればお答えください。

●議長（小林幸雄） 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長（伊藤 均） 町内の正規と非正規での賃金格差については、今のところ把握しておりません。先ほどと同じく、参考の数値でお願いしたいと思います。平成 27 年長野県賃金実態調査によると、県内全体では、一般労働者の平均月額賃金 27 万 2362 円、時給に換算しますと 1 時間あたり 1500 円。パートタイム労働者では、平均月額賃金 11 万 388 円、1 時間あたり 998 円。1 時間あたりでは、502 円の格差となっております。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6 番（吉岡輝明） 政府は、RESAS（リーサス）、地域経済分析システムを公表して、自由に使って良いと。我々一般の人が使えるのには限度がございまして、セキュリティのかかっているものについては行政の方では自由に見られるようになっているかと思うのですけれど、そのRESAS（リーサス）には、こういう分析はあるのでしょ

## 平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録(4 日目)

うか。一般の部門では、私が探した範囲内ではなかったのですが。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。私の把握している中では、この正規と非正規職員の賃金の格差についてのデータというものは、ないと思っております。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6 番（吉岡輝明） それでは役場職員の場合、時給換算での格差についてお答えください。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。まず町の事務系で非常勤の職員の方の時給につきましては、1 時間当たり 813 円でございます。また、それに比較しまして、町の一般行政職の全職員、こちらは主事補から課長まで全てを含めた中で、時間で割り返した給料の平均ですと、1 時間当たり 1765 円。差が 952 円で、倍率で言いますと 2.2 倍弱という形の差になっております。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6 番（吉岡輝明） はい。先ほど町長は、正規と非正規の格差について、いろいろな業種とかあるというふうにおっしゃいましたけれども、役場職員の、今、その 813 円と 1765 円の、この格差について、どのように思われるか、答弁お願いいたします。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） はい。私ども行政の立場からしますと、まさに臨時的なことで、そのお手伝いをお願いするというのは大原則であります。そういった意味からしまして、職員の、いわゆる右腕と言いますか、に、なっただくように、そのそれぞれの仕事については、臨時さんをお願いをする部分の仕事については、それなりのお仕事をお願いしているということでございますので、その件について、高いのか、格差があり過ぎるのか、ということについては、私は今申し上げられませんが、日額相当にしても、当面、妥当な金額なのだろうというふうに思っております。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6 番（吉岡輝明） はい。今、総務課長が答弁された、その臨時と正規の差、九百いくらはですね。これは、手当は含まれない金額でしょうか。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。手当を含まない、給料額の平均でございます。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6 番（吉岡輝明） そうしますと、正規の職員の方には、いろいろな諸手当が更に含まれますよね。そうすると、その格差はもっと大きいものではないかと思うのですが、役場内で同じ机を並べている正規の人と非正規の方が、給料が倍以上も違うということが、実際にあるわけでございます。その辺のことを、政府も、同一労働・同一賃金と言っていますから、その辺もあるのではないかと思うのですが、その辺、町長いかがですか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 同一労働・同一賃金というのは、そういった意味ではないのだろうというふうに、私は思っているんですね。ですから、先ほど申し上げましたように、いわゆるその職員が、短期的にと言いますか、事務処理をするのに、この事務処理はこういうふうをお願いしたい、というようなことをお願いする立場として、臨時的な皆さんにお願いしているわけでありますので、そういった意味からすれば、今議員がおっしゃるような同一労働・同一賃金ということには当たらないというふうに思っています。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6 番（吉岡輝明） はい。まあそれでも臨時職として働いている職員にしてみれば、1 か月 17 日以上働いている、社会保険も払っている人に見れば、机で横に並んでいる人は、こんなに格差があるのかということが、何か私にはちょっと釈然としないものがあるのですが、この非正規の職員の方は、組合は関係ございませんよね、信濃町の場合。その非正規の職員の方が何か、賃金を上げてくれとか、そういう交渉ができる場はあるのでしょうか。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） 役場内に限定して申し上げますと、非常勤職員の方が役場の職員労働組合に加入しているということはありませんが、職員労働組合の方の要求の中に、非常勤職員、また嘱託員等の時間給なり賃金の増額についての要望というものは、随時要望として寄せられておりまして、それについて交渉を行っております。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6 番（吉岡輝明） はい。役場の非正規の職員の方も、気持ち良く仕事ができるような環境を作っていただくことをお願いして、その正規と非正規の問題については、この辺にしておきます。

町の予算書・決算書を見ますと、正規職員いわゆる正職員は、賃金等が一般人件費に仕訳けられておりますが、非正規雇用者、臨時職員は事業費の中に仕訳けられております。町全体の予算・決算において、非正規雇用者・臨時職員の賃金等は、人件費として表れておりません。総額で1億8000万余にもなる賃金、歳出の3.1パーセントにもなっておりますが、先ほど述べましたとおり、正職員の諸手当を除いた職員給、総額6億2000万円余の3割にも達する臨時職員の賃金が、人件費に含まれない理由を教えてください。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。この歳出におきます性質別の集計につきましては、科目の部分につきましては地方自治法に基づいておりますし、この仕訳につきましては、国の方で示された基準により仕訳をさせていただきますので、そのものが統計として国で使われているということで、一律で行っております。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6 番（吉岡輝明） はい。ということは、もう全国の自治体全部、このようにやっているということでしょうか。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。全国の自治体で、同じような仕訳を行っております。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6 番（吉岡輝明） はい。それであれば、もう仕方ないのですけれど、その一般人件費ですが、町の予算書・決算書では、各課ごとに算出されており、人事異動の度に補正されていることがございます。事務の無駄とは考えないでしょうか。民間企業では、事業制を採る超大企業を別にして、人事あるいは総務のセクションで人件費を一括して給与の管理をしております。役場事務簡略化のために、その会計処理を変更すること、これも、自治法か何かの関係で、できないのでしょうか。その辺お答えください。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。



■総務課長（高橋博司） 人件費、今の給与費につきましては、例えば具体的に申し上げますと、扶養手当に変更があった場合などにつきましては、職員数が少ない科目に存置する場合におきましては、すぐ補正が必要になると。支払ができなくなるということで、随時補正をお願いをしているところでございますが、これにつきましても、地方自治法の施行規則等で、その科目をそちらに設定することが求められておりますので、それに従って対応しております。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6番（吉岡輝明） ということは、民間企業みたいに総務課にその給与セクションを作って、役場職員全員の給料を一括して事務処理を行うというふうなことは、法律上できないという答弁でございますか。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。法律で決まった内容に従って処理をしておりますが、ただ、給与事務につきましては、一括総務課で行っておりまして、それをそれぞれの款項等に分けまして、予算措置を総務課の方で一括をしまして対応しておりますので、それぞれの担当課で、その予算について補正とかそういうものについて対応するという事はしておりませんので、そのような事務処理をしております。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6番（吉岡輝明） はい。そうしますと、給料の計算等は全部総務課でやっておるけれども、予算・決算に係る問題については、各課にまかせると。そうすると各課で、各課の係に、そういう補正予算を作ったりするセクションの人がいるというふうに理解してよろしいのでしょうか。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。補正、予算関係につきましては、今、コンピュータ上でデータで処理をしております。その入力関係につきましては、総務課でそれぞれの款項で一括で行っておりますので、事業的なものにつきましては、それぞれの所管課で補正予算等の対応をしておりますけれども、それ以外の給与費等につきましては総務課で一括入力等をしておりますので、それぞれの課で、給与については担当をしているという事はございません。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

## 平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録(4 日目)

- ◆6 番(吉岡輝明) はい。議会に、いつもその補正で上がって来るのを見ますと、その人事異動とかそんなことで、非常に膨大な事務量ではないかと、私などは思っていたのですけれども、法律でそれができないというのはちょっとやむを得ない、ちょっと私の勉強不足だったという面もあります。

それでは、人口増の施策について、更に質問をしていきたいと思えます。

人口増についての施策については、出生率の向上ばかりではありません。町では、昨年1月に定住促進係を新設して移住定住増を目指しており、これまで消極的だった地域おこし協力隊事業の導入を行いました。現在、お隣の長野市では、既に22名もの協力隊員が活躍していると聞いています。卒業して就職する社会人が多い、この新年度直前のこの時期までに、町に応募された地域おこし協力隊員の応募状況について、答弁をお願いいたします。

- 議長(小林幸雄) 高橋総務課長。

- 総務課長(高橋博司) はい。それでは答弁に先立ちまして、先ほど答弁保留をさせていただきました役場内の非常勤職員また嘱託員等で、社会保険に加入している人数について、先に答弁させていただきます。社会保険加入者につきましては、72名でございます。なお、内訳としますと、病院が32人、教育委員会が35人、庁舎内が5人でございます。

それでは、地域おこし協力隊の応募状況について、御説明申し上げます。2月12日までの募集期間で1次募集を行っておりましたが、応募者はございませんでした。現在、3月31日までの申し込み期限で再募集を行っております。なお、着任時期につきましては、6月までを想定しております。以上でございます。

- 議長(小林幸雄) 吉岡議員。

- ◆6 番(吉岡輝明) 町は、12月会議の、私の地域おこし協力隊事業の一般質問の答弁で、募集に関してはコンサルタントに依頼するとの答弁がありました。現在、2月12日現在で応募ゼロだったということは、そのコンサルのやったことが、やったことでの応募が、ゼロだったというふうに理解してよろしいでしょうか。

- 議長(小林幸雄) 高橋総務課長。

- 総務課長(高橋博司) はい。コンサルタントにお願いをしまして、インターネット等の媒体を使いましての告知、また、首都圏、東京ですが、2日間でそのPRイベントを実施をしまっておりますが、その結果としまして、応募者がいないという状況でございます。

- 議長(小林幸雄) 吉岡議員。

◆6 番（吉岡輝明） はい。協力隊員募集に関する経費は、200 万を上限として特別交付税で賄われますが、そのコンサルタントへの契約は、成功報酬型の契約になっているのか、そうではなくて、応募者ゼロでもコンサルタント・フィーは払うという契約になっているのか、お答えください。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。成功報酬型の契約ではなく、委託契約でございますので、この状況でも支払いをしてまいります。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6 番（吉岡輝明） はい。その契約期間は、いつまでなのですか。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。契約期間につきましては、既に終了しておりますが、その契約期間の内容につきましては、ちょっと今、把握をしておりますので、確認して御回答いたします。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6 番（吉岡輝明） はい。ということは、じゃあ応募ゼロだった、応募ゼロだったけれど、200 万は、そのコンサルタントに払った、というふうに理解してよろしいのでしょうか。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。支払につきましては、検収をしまして、これからでございます。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6 番（吉岡輝明） 今、この 200 万、特別交付税で直接一般会計から出るわけではないものですから、自分の腹は傷まないということなのでしょうけれども、やはり国民の税金から賄われているわけですから、費用対効果、やはり効果のある出費を払うのが、我々町民、皆の思いだと思いますね。その辺、精査されて、これからまた再度契約されるのかもしれませんが、コンサル契約に関しては、是非、成功報酬型の契約にさせていただきようお願ひしたいと思うのですが、いかがでしょうか。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） 今回のコンサル契約につきましては、その前段としまして、募集仕様書等の内容確認だとか、アドバイスも受けた中で募集をさせていただいております。

今後でございますが、このような事業につきましては、なかなか成功報酬と言いましても、実際にその町を取りまく環境だとか、全国的な状況がございますので、成功報酬型での契約というのは、なかなか難しい状況だと思っております。

今回、参考でございますが、国が運営します移住交流ナビというサイトがございますけれども、地域おこし協力隊の募集状況を見ますと、甲信越圏で、現在で 23 市町村の募集が行われております。県の担当者によりますと、国の財政措置が拡充された時期と重なりまして、現状では募集数が希望者数をかなり上回っているということでございまして、また更に、どうしても初めて募集する市町村につきましては、それぞれの人脈等がございませんので、どうしても敬遠され気味になるということでございますが、今後につきましては、長野県と共同によりまして、募集説明会等に参加をしまして、町独自としまして、募集活動を行ってまいる予定でございます。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6 番（吉岡輝明） はい。今年度の予算書にも、地域おこし協力隊員のその費用としての予算が計上されております。是非その予算が消化されるように、是非町には、募集をこれからも、募集隊員が現れるように努力していただくことをお願いしたいと思っております。

最後ですけれど、先ほど述べました、出逢いの場創出支援事業の予算は、20 万と、あまりにも些少ではないかと思っております。町の人口増、さらに出生率を向上させるには、先ほど述べましたとおり、結婚に至るカップルを作ることが、まず先決ではないかと思っております。町内で結婚してもらう人たちを増やすために、その前提となる出逢いの場創出支援事業を拡大させるために、是非補正予算を組む気持ちがあるかどうか、是非前向きな答弁を町長にお願いしたいと思っております。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） はい。今、基本的に、人口を増やすその前提として、その結婚をされる皆さんを増やす、これは本当に大事なことだと思うのです。それぞれ出逢いの場の創造事業等々、商工会の皆さんともタイアップしながら進めているわけですが、先ほど言いましたように、長野の連携中枢都市圏構想の中にも、一つ枠を広げ、そしてまた県としても、こういったものに力を入れるというような方向が出ておりますので、そういったものを見ながら対応したいというふうに思うんです。町単独でこの予算を増額して云々という事も、一つは考えられるのですが、その事が、やらないよりやった方

## 平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録(4 日目)

が良いだろうという考えになるのか、なかなかその効果としてどうなのか、というような問題も検証していかなければいけないというふうに思うんですね。ですからその辺も含めて、今年度というわけにはいきませんが、またその辺のところにも、町としても力を入れていく必要があるだろうというふうには思っております。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） 答弁保留にさせていただきましたコンサルタントへの契約期間の関係でございますが、申し訳ございません、私の方で誤りまして、契約期間につきましては、12月14日から3月31日までということで、再募集分も含めまして、今インターネット等で告知をお願いしているところでございます。以上でございます。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6番（吉岡輝明） はい。町の人口を増やす、移住定住、それとあと町内で子供を産んでくださる方が増える、その両輪でいかないと、7500人の人口維持もできないかと思えます。是非それに沿うような形で、様々な施策をやっていただくことをお願いいたしまして、次の質問に移らせていただきます。

それでは二つ目の、町民の健康寿命についての質問に移らせていただきます。

健康寿命とは、介護の必要がなく、健康的に生活できる期間を示します。長野県は、平均寿命、男性80.88歳、女性87.18歳。健康寿命、男性71.1歳、女性74.2歳。ともに日本一の称号を受けておりますが、先ほど述べましたとおり、人間が尊厳を持って生きる期間とは、何ら介護を必要としない、健康的に生活できる期間であり、健康寿命であると考えます。長野県下、高森町で始まった「ぴんぴんころり運動」、略してPPK運動とも言われておりますが、現在、国内はもとより、日本全国に広がっているのは皆様御承知のとおりでございます。また、佐久市には、ぴんころ地蔵なるものが2003年に開設され、私も以前、訪ねたことがあるのですが、東京の巣鴨地蔵ほどの混雑ではありませんが、日本全国から多くの年配の善男善女の皆様が、大型バスを連ねて訪れており、そのぴんころ地蔵を、皆で、なでたりこすったりするもので、その地蔵像は、ずいぶんすり減っていたのを記憶しております。前期高齢者の私を含め多くの方は、病気に苦しむことなく、元気に長生きし、病まらずにころりとお迎えを待つのが、一番の願望ではないかと思えます。

そこで、町長にお尋ねいたします。このPPK運動についての御所見と、信濃町町民の平均寿命、健康寿命は算定されているのか、算定されていれば何歳となっているのか、お答えください。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 今、懐かしい言葉と言いますか、PPK運動ということで、長野県

発祥の運動ですね、おっしゃられたように、元気で生活をして、そしてその結果、最後はあまり寝たきりにならないで、その生涯を閉じると、こういうことでございます。これはそういう面では、予防活動も含めて、長野県のこの信濃町としても、予防にも力を入れながら、そういう事に取り組んでいるということでもございまして、願いはやっぱり生身の人間とすれば、どなたも、願いはそういうことだろうというふうに思うんですね。ですから、自分の自助努力と言いますか、そういうことも含めて、私ども町とすれば予防活動と言いますか、そういうものにもしっかりと取り組んでまいりたいというふうに思っております。

それからもう一点、平均寿命と言いますか、余命と言いますか、健康寿命と言いますか、それを算定しているか、ということですが、これは担当課長から申し上げさせていただきます。

●議長（小林幸雄） 高橋住民福祉課長。

■住民福祉課長（高橋 徹） 町で直接ということではないのですが、県の方で調べた数で、男性で平均寿命が 81.1 歳、女性で 86.8 歳となっております。健康寿命につきましては、特別出てはしません。平均的に言われているのが、男性で約 10 歳差、女性で 13 歳差と言われております。以上です。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6 番（吉岡輝明） はい。今の課長の答弁は、県で調べた、信濃町の町民の平均寿命のことでもございますか。

●議長（小林幸雄） 高橋住民福祉課長。

■住民福祉課長（高橋 徹） はい、そうです。県で調べた平均寿命になります。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6 番（吉岡輝明） はい。県では調べるけれど、町では調べていないと理解してよろしいのでしょうか。

●議長（小林幸雄） 高橋住民福祉課長。

■住民福祉課長（高橋 徹） 平均寿命の出し方は、とても難しい計算式ですので、町では特別調べてはおりません。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

## 平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 3 月会議 会議録(4 日目)

◆6 番（吉岡輝明） はい。信濃町の、現在第 6 期の介護保険料の算定基準額、基準額算定額は、4300 円と県下で一番安い設定となっており、これから推測すると、県下でも健康寿命ナンバーワンの町ではないかと思いますが、このポジティブな素晴らしい情報を移住定住促進の施策として利用している様子が、ホームページ上で全くありません。町がホームページ上に作った信濃町移住定住支援サイトには、このような情報が全くされておきませんが、その辺の理由と、その移住支援サイトを、町の、その移住支援サイトを町のホームページへの掲載後、これまでのアクセス数やアクセス分析をしているのか、何か良い成果を出しているか、つまり P D C A を行っているか否かについて、答弁をお願いいたします。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） はい。移住支援サイトにつきましては、現在、介護保険料が県内で一番安いという情報は、特には載せておりませんが、今後そういうものも含めて、掲出を考えてまいりたいと思います。

なお、現在アクセス数等につきましては、ちょっと確認をさせていただいて回答させていただきたいと思っておりますが、稼働し始めたところでございますので、まだチェックという形の中での検討はしておりません。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6 番（吉岡輝明） はい。この健康寿命の話題は、現在長野県へ移住を希望する中高年の皆様には、信濃町を選択させる非常に良い効果があるのではないかと思います。私もその信濃町移住支援サイトを見たのですが、町は、若者の移住定住を積極的に推進しているように感じ、中高年はあまり歓迎していないように思いますが、町長の見解をお願いいたします。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 基本的にはそういう区別はしておりませんので、どういう世代でも、是非信濃町に住んでいただきたいなという思いであります。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6 番（吉岡輝明） 町長、それではそのホームページの移住支援サイトをご覧になられた感想はいかがでしたか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） いわゆる「ありえない信濃町」ということですか。私は、斬新なホ

ホームページで、なかなか良くできているなというふうに思うんですね。その中で今、例えば若者に向けての発信というふうにとられるかもしれないのですが、一番は、やっぱりその若い皆さん方に移住をしてほしいというのが願いでありますので、先ほど言いましたように、それは願いとしても、全年齢世代の皆さん方、それぞれの思いがあるでしょうから、是非また信濃町を選んで、おいでいただくようなことを望んでいるわけでございます。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6番(吉岡輝明) はい。ですからその辺で、今、移住定住というのは、若者ばかりではないわけですよ。都会で定年退職した方が、地方に移住しているというのは、あちこち、県内でもあちこちであるかと思うのですけれど、あのサイトを見る限り、そういう若者の人だけ来てください、というふうに感じるのですけれども、そのようには感じられませんでしたでしょうか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 私はそういう意図、意図と言いますか、見て、そういうふうに感じたというふうには、特に思っておりません。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6番(吉岡輝明) はい。移住定住は、必ずしも若者ばかりではございません。今、都会で移住定住を希望する人は、ほとんどが中高年の方が多いうような情報を、私は得ておりますので、是非若者に限ることなく、おしなべて全ての人、しかもその介護保険料が県下で一番安い、これは多分日本で一番安いのではないかと思うんですよ。私が県の方の担当課に確認しましたところ、多分そうだろうという答弁は得ております。そういうことで、信濃町を移住の地としてチョイスしてもらって非常に良い条件、因子だと思うんですね。ですから是非そういうことを、このホームページを随時改めまして、発信していただくようお願いしたいと思っておりますけれども、その辺の御判断はいかがでしょうか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 世代を超えて、もしそういうふうな、何と言いますか、ある偏った年代層を見込むというふうな見られ方をするようなサイトですと、これはまた問題、問題と言いますか、十分な機能をしないだろうというふうに思います。だからその辺は、しっかりまた今後の中でも、十分進めてまいりたいというふうに思います。

そしてまた今、言われましたように、例えば介護保険料が長野県下一番安い 4300 円月額平均ということで設定しております。たまたま、この近隣の市で昨今当選された市



長も、介護保険料が非常に安いんだということによっておられますが、私は、ちょっと微妙な線があるなど。実は介護保険料については担当にも聞いたのですが、十分そのサービスが行き渡って、介護保険の場合ですね、そして結果的に介護保険料が安いということだというふうに、今思っているのですが、まあその事を訴えていくということがどうなのかなという部分は、実はありまして、そのことをもって、その移住定住にもつなげるというような基本的な考えは、今、私の中の頭の整理はできておりませんので、お願いしたいと思います。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） それでは答弁保留をさせていただきました移住支援サイトのアクセス数につきまして、回答させていただきます。12月1日から2月24日までということでございまして、閲覧数につきましては、1万5802でございます。閲覧ユーザー数につきましては、同一ユーザーが何回か見ている時もあるのですが、約3000ユーザーでございます。

●議長（小林幸雄） 吉岡議員。

◆6番（吉岡輝明） はい。今町長さんがお答えになった、その介護保険料が安いことが、必ずしも健康寿命ではないということは、私も県の担当者と電話で話しまして、100パーセント、リンクするものではないけれども、介護費用が少ないから、介護費用が少ないから介護保険料が安くなっているということは、介護を受ける人が少ないということで、理由の一つにはなるというふうな答弁を得ておりますから、そういう意味で信濃町は、その介護保険の、保険の給付を受けている人が少ないという事実は確かでございますから、そういうふうに健康で暮らす人が多いんだということを、是非アピールして、移住定住につなげたらよいのではないかとというのが、私からの提案でございます。

以上で、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

●議長（小林幸雄） 以上で、吉岡輝明議員の一般質問を終わります。

この際、10時50分まで休憩といたします。

(午前10時36分)